

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25300022

研究課題名(和文)古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究

研究課題名(英文)Studies on funerary customs and idea of the other world in Ancient Israel

研究代表者

月本 昭男 (TSUKIMOTO, Akio)

上智大学・神学部・教授

研究者番号：10147928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は旧約聖書を残した古代イスラエルの人々の墓制と他界観の解明を目的とした研究である。初期鉄器時代にパレスチナ丘陵地に定住したイスラエル人の墓制は、海岸平野に居住したペリシテ人などが土壙墓、石棺墓、甕棺墓など個人墓を基本にしたのとは対照的に、岩をくり抜いて仕上げた洞穴墓であり、基本的には家族墓であった。そこから、「先祖のもとに集められる」といった旧約聖書に頻繁にみられる埋葬の記述はこうした墓制と無関係ではなかったことが判明する。他方、旧約聖書は一神教信仰のもとで、冥界について多くを語らないが、考古学的遺構や遺物は古代イスラエルの人々が死後の生活を前提にしていたことを明らかにする。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the funerary system in the ancient Israel and the idea of the Other World. The Israelites settled down in the central hill region of Palestine in the Early Iron Age and used to bury the dead in the rock cave family grave in underground, while the Philistines and others who lived on the sea shore plain buried each one of their family members individually in a simple grave such as a cist grave or in a jar coffin. Such kind of the burial system in ancient Israel explains why the Hebrew bible usually uses the expression "be gathered to his people" in its burial stories. The archaeological findings, on the other hand, make it clear that the ancient Israelite people believed in the life after death, although the Hebrew bible keeps quiet about the world after death.

研究分野：宗教史学

キーワード：古代イスラエル宗教 他界観 墓制 家族墓

1. 研究開始当初の背景

かつて日本調査団が 1964-1966 年にイスラエルの遺跡テル・ゼロールにおける発掘調査(団長、大島清東京大学教授<当時>)で発見された墓地遺跡は、古代イスラエルにおける墓制研究の基礎資料を提供した。しかしながら、それ以後も、古代イスラエルの諸遺跡が調査され、新たな墓地遺構が発見されているにもかかわらず、日本において、古代イスラエル時代の墓制研究は実施されてこなかった。

そうした背景のもと、本研究はあらためて古代イスラエルの墓制を調査するとともに、古代イスラエルの民が残し、人類宗教史に多大な影響を及ぼした旧約聖書にみる世界観とを比較検討しようとするものである。

2. 研究の目的

後のユダヤ教に引き継がれ、キリスト教誕生の土壌ともなった古代イスラエル宗教に関しては、唯一神、律法、預言、歴史などの観念が重視されてきたが、世界観にはこれまで大きな関心が向けられてこなかったといえる。むしろ、一般的には、旧約聖書の記述に基づき、古代イスラエルの世界観は、後のキリスト教などと比べて、きわめて希薄であるといわれてきた。事実、キリスト教に定着した「天国と地獄」といった死後の観念は旧約聖書にみられない。

それに対して、本研究は、これまで考古学的調査によって明らかにされてきた墓地遺構の観察、およびそこから推定される世界観と旧約聖書にみる記述との比較考察を通して、古代イスラエルの民が抱いていた世界観の実証的・総合的解明を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、したがって、考古学発掘調査の成果と旧約聖書文献学を突き合わせることによって、古代イスラエル墓制と世界観を実証的・総合的に明らかにする。そのために、研究分担者はイスラエルにおける現地調査を実施する。

現地調査に関しては、研究代表者が 2006 年から調査団長として発掘調査を開始したイスラエル・下ガリラヤの遺跡テル・レヘシュの第二期発掘調査(2010 年以降は天理大学・文学部教授・桑原久男氏が団長)に参加してもらい、同遺跡の墓地の発見を目指すことにした。

4. 研究成果

古代イスラエルの墓制について明らかになったことは、なによりも、古代イスラエルの民は基本的に家族墓を営んでいたことである。ペリシテ人をはじめとし、海岸平野部に居住した民族は土壙墓、石棺墓、さらには甕棺墓などを残しているが、それらは、前述したテル・ゼロールの墓地遺構がそうであったように、基本的に個人墓であった。それと

は対照的に、初期鉄器時代(前 1200 ~ 1000 年頃)、パレスチナ丘陵部に定住して国家を形成した古代イスラエルの民は、多くの場合、岩盤を削り抜いた洞穴墓を営んでいた。

洞穴墓の形態は竪穴式と横穴式とがみられるが、おおむね、中央の広間の周囲に複数の玄室が附属する形態をとる。そして、広間部分には火をたいた痕跡がみられることから、いわゆる祖先供養がなされたと解釈されるのである。

こうした考古学的な事実は、一方で、旧約聖書の埋葬記事に繰り返される「先祖のもとに集められた」(創世記 25 章 8 節他)という表現が、単なる比喻ではなく、家族墓という墓制を背景にしていた、ということを示した。その一方で、旧約聖書は死者儀礼を禁じ、祖先祭礼を実施した事実を明瞭な形で書き残さなかった。しかし、考古学的資料はひろく祖先祭祀を示唆していることが、本研究により明らかにされた。旧約聖書が死者儀礼を禁じた理由は、それが異民族の慣習であったからではない。むしろ、古代イスラエルの民間では、じつは、ひろく祖先祭祀が実施されていたのである。それは考古学資料が文献資料を保管する端的な事例となるだろう。

以上の成果とは別に、本研究は副次的にはあるが、きわめて重要な研究成果がもたらされた。それは、前述のテル・レヘシュ発掘調査において、2016 年 8 月、本研究の研究分担者である小野塚拓造氏が担当する発掘調査区域(遺跡の最頂部、鉄器時代層の直上部分)において、紀元 1 世紀に遡りうるユダヤ教の会堂(シナゴーク)跡が発見されたからである。

新約聖書の福音書は、イエス・キリストがガリラヤの会堂で教を述べたことを伝えているが、これまで、イエス時代に遡る会堂はガムラ(ゴラン高原)とマグダラ(ガリラヤ湖北西岸)の二例が知られるだけであったが、日本調査団により三例目が発見されたことになる。この発見は、いわゆる聖書考古学ニュースとして、またたく間に世界に伝わった。この発見は、ローマ時代のテル・レヘシュが極めて小さな村落であっただけに、そのような小村落にもユダヤ教の会堂の存在が確認されたという意味で、宗教史的にもきわめて意義ある発見であった。数年後には、公式的な成果報告が公刊されることになるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

日本昭男「友と隣人、友情と隣人愛」『福音と世界』(2017 年 2 月号)、50 - 55 頁。

(査読なし)

津本英利「西アジア考古学の中のイスラエル考古学」『古代文化』68 号(2016 年)

45-55 頁 (査読あり)
月本昭男「旧約聖書における社会的弱者の保護をめぐる」『福音と世界』(2016年、10月号)、47-53頁。(査読なし)
月本昭男「旧約聖書における埋葬と他界観」大城道則編『死者はどこへ行くか』(河出書房新社、2016年) 9-33頁。(査読なし)
月本昭男「エマルの寡婦 前13世紀シリア社会の一面」小川英雄先生傘寿記念献呈論集刊行会編『古代オリエント研究の地平』(リトン、2016年) 49-67頁。(査読あり)
津本英利「考古資料を通して見た旧約聖書の時代」上智大学キリスト教文化研究所編『聖書の世界を発掘する 聖書考古学の現在』(2016年)、9-44頁。(査読なし)
小野塚拓造「油滴る地 聖書時代のオリブ生産」上智大学キリスト教文化研究所編『同上』、45-76頁。(査読なし)
月本昭男「旧約聖書にみる埋葬習慣と他界観」上智大学キリスト教文化研究所編『同上』、113-145頁。(査読なし)
津本英利「粘土板に残された知の宝」豊田浩志編『モノとヒトの新史料学 - 古代地中海世界と前近代メディア』(勉誠出版、2016年)、2-25頁。(査読なし)
橋本英将・宮崎修二・小野塚拓造・山吉智久「イスラエル、テル・レヘシュ遺跡第7次・第8次発掘調査」『古事』19号(2015年) 111-116頁。(査読あり)
月本昭男「絶望という希望 ヨブの場合」宮本久雄他編『希望に照らされて 深き淵より』(日本キリスト教団出版局、2015年)、75-93頁。(査読なし)
Tsukimoto, A., Humor und Ironie in der jahwistischen Urgeschichte, Supplement Vetus Testamentum 163 (2014), pp. 333-346. (査読あり)
Tsukimoto, A., "In the Shadow of Thy Wings": A Review of the Winged Goddess in Ancient Near Eastern Iconography, Orbis Biblicus et Orientalis 160 (2014), pp. 15-33. (査読なし)
Hasegawa, S., The Conquest of Hazael in 2 Kgs 13:22 in the Antiochian Text, Journal of Biblical Literature 133 (2014), pp. 61-76. (査読あり)

〔学会発表〕(計9件)

月本昭男「死海文書とダマスコ文書」日本聖書学研究所、東京都新宿区、2017年5月17日。
桑原久男・橋本英将・小野塚拓造・宮崎修二「下ガリラヤ地方における初期シナゴグの新例 テル・レヘシュ第10次調査(2016年)」日本西アジア考古学会、豊島区東池袋、2017年3月26日。

橋本英将・桑原久男・津本英利・小野塚拓造「西アジアに出現した大帝国の支配をさぐるテル・レヘシュ第9次発掘調査(2015年)」日本西アジア考古学会、豊島区東池袋、2016年3月27日。
津本英利「テル・レヘシュ出土フィブラとスキタイ式銅鍍について」イスラエル考古学研究会、東京都八王子市、2015年12月19日。
小野塚拓造・橋本英将・桑原久男「新バビロニアの拠点遺跡を探る イスラエル、テル・レヘシュ第8次調査(2014年)」日本西アジア考古学会、豊島区東池袋、2015年3月29日。
Tsukimoto, A., Humor und Ironie in der jahwistischen Urgeschichte, International Association for Old Testament Studies, Munich(Germany), Aug. 8th, 2013.
月本昭男「古代イスラエルの埋葬法と他界観」上智大学キリスト教文化研究所、東京都千代田区、2014年11月16日。

他2件

〔図書〕(計6件)

魯恩碩『旧約文書の成立背景を問う』(日本キリスト教団出版局、2017年)(総頁数399)
山我哲雄『一神教の起源:旧約聖書の「神」はどこから来たか』(筑摩書房、2013年)(総頁数378)
長谷川修一『旧約聖書の謎:隠されたメッセージ』(中央公論新社、2014年)(総頁数233)
Ro, Unsok, ed., From Judah to Judaea: Socio-economic Structures and Processes in the Persian Period, Sheffield:: Phoenix Press, 2014. (総頁数217)
月本昭男『この世界の成り立ちについて』(ぶねうま舎、2014年)(総頁数216)
月本昭男『旧約聖書に見るユーモアとアイロニー』(教文館、2014年)(総頁数150)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:
取得状況(計0件)
名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

月本 昭男 (TSUKIMOTO, Akio)

上智大学・神学部・教授

研究者番号：10147928

(2)研究分担者

山我 哲雄 (YAMAGA, Tetsuo)

北星学園大学・経済学部・教授

研究者番号：80230332

長谷川 修一 (HASEGAWA, Shuuichi)

盛岡大学・文学部・准教授

研究者番号：70624609

日野 宏 (HINO, Hiroshi)

天理大学・附属参考館・学芸員

研究者番号：20421290

津本 英利 (TSUMOTO, Hidetoshi)

古代オリエント博物館・研究部・研究員

研究者番号：40553045

魯 恩碩 (RO, Unsok)

国際基督教大学・教養学部・准教授

研究者番号：70527142

山内 紀嗣 (YAMAUCHI, Noritsugu)

天理大学・附属参考館・学芸員

研究者番号：80441426

小野塚 拓造 (ONOZUKA, Takuzo)

東京国立博物館・企画部企画

課・アソシエイトフェロー

研究者番号：90736167

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

宮崎 修二 (MIYAZAKI, Shuuji)

立教大学・文学部・兼任講師